

礼文の森から

宗谷森林管理署
礼文森林事務所



森の作り方紹介②



前回に引きつづき、林野庁が行っている森作りの方法を紹介します。

今回紹介するのは「②苗木の植付」です。



森作りの流れ

「①地拵え（じごしらえ）」→「②苗木の植付」→「③下刈り」（→④除伐・間伐）

植付とは？

地拵えして植えやすくした土地に、苗木を植えることです。

植付の方法を決める時は、いくつかのポイントを踏まえて考える必要があります。

①樹種はどうするか：**トドマツ、アカエゾマツ、カラマツ、ミズナラ等広葉樹**・・・

◇どんな森を目指すか：「木材生産」「レクリエーションを意識した多様な森」等

◇環境に適しているか：風の強さ、土壌の乾湿、日当たり等から樹種を決めます。

②植える時期はどうするか：**春に植えるか、秋に植えるか**

◇植える時期が遅いと、苗木が芽吹き乾燥により枯れやすくなります。

◇春の雪解けが遅い地域では秋植えを検討します。

③どんな植え方にするか：**低密度に植えるか、高密度に植えるか**

◇高密度だとお互いの苗木が風よけになり、強風の厳しい環境でも耐えやすくなります。

しかしその分コストも割高になるのでバランス良く考えます。



礼文島苗木植付の様子

風対策としてフェンス内に3列に植えています



トドマツの苗木

礼文島では、強風に耐えられるようアカエゾマツ・トドマツ等の高密度植付、場所によってはハードルフェンス（風よけ）を作り、苗木を守っています。

決して木が育ちやすい環境ではありませんが、地道な作業の繰り返しで森林再生を進めています。